

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：駒岡こども園	種別：保育所
代表者氏名：原瑞穂	定員（利用人数）： 30名
所在地：神奈川県横浜市鶴見区駒岡5-15-32 ラピスヒルズ1F	
TEL：045-584-6488	ホームページ：http://kodomonomori.co.jp/ko/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2004年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社こどもの森	
職員数	常勤職員： 8名 非常勤職員 0名
専門職員	園長 1名
	保育士 6名
	栄養士 1名
施設・設備 の概要	乳児室・ほふく室 2室 事務室・医務室 1室
	保育室・遊戯室 2室 調理室 1室
	園庭 135㎡

③理念・基本方針

【基本方針】

当園は、こどもに快適な環境で十分な発育を促すと共に、仕事が忙しい中、家事・育児と頑張っておられる保護者の方をできるだけサポートしていきたいとの願いから生まれたものです。

そして何よりもひとりひとりのお子様を大切にお預かりし、私たち保育士は生活リズムを大切に考え、ひとりひとりのこどもを理解し、愛おしさに根ざした保育を心掛けてまいります。こどもたちが楽しく居心地良く一日を過ごし、保護者の皆様がより安心して預けられるよう全力で保育にあたります。

【保育目標】

- 基本的な生活習慣を養い、健やかな成長を培う
- 遊びや生活を通して人との関わりをより多く持たせ、他人を思う優しい心を育てる
- 身近な自然や社会との関わりから豊かな心情や考える力の基礎を培う
（自然と心情に重点を置く）
- 生活の中で言葉をよく聞く、よく話す環境をつくり、言葉への興味や関心を育てる
- 豊かな感性を育て想像力を育む
- 家庭的な雰囲気の中で、安心感を持たせ、のびのびとした成長を促す

④施設・事業所の特徴的な取組

【園内研修、外部研修などを通して職員の育成に努めています】

毎月園では、職員が順番に講師となり園内研修を実施しています。園内研修の内容に

については職員からの提案をもとに、園長と共に園に必要な内容を検討し実施しています。内容として、保育に直接関連する事だけでなく、「正しい日本語について」など幅広く学んでいます。

法人主催の研修は、経験年数別の研修や役職ごとの研修、また新人職員に対しては合宿で行われる研修などがあり、一人ひとりの職員の育成に努めています。自治体等が主催する外部研修では、障害に関する研修や子どもの人権に関する研修などに参加するとともに、年間を通して毎月リトミックの外部研修に参加し、資格取得にもつなげています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年 6月17日（契約日） ～ 令和3年 3月29日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	4回（2015年度年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

【保育内容について保護者とのコミュニケーションが図られています】

日頃の送迎時や連絡帳などを通して、保護者とのコミュニケーションが図られています。また、園での子どもたちの様子は、園の重点目標として掲げている「あいさつのできる子」「じょうぶなからだの子」「おもいやりのある子」に沿って、日常の子どもたちの仕草や興味などを踏まえ、個々の具体的なエピソードとして、園だよりなどで園長や各クラス職員から伝えています。

また、運営委員会では母親だけでなく、父親の参加も積極的に促すことで、幅広く保護者の意見を取り入れる姿勢が見られます。運営委員会、懇談会等で得られた「職員の名前が分かるようにしてほしい」「芋掘りの実施」「手先を使った遊びを取り入れて欲しい」などの保護者の意見に対して、「一人ひとりの職員がワッペンをつける」「芋掘りの実施」「職員の手作りで、手先を使った玩具を作る」などの取り組みが行われました。このように、園での子どもたちの様子を具体的なエピソードとして伝えるとともに、保育に関する保護者からの意見を取り入れるなど、日頃から保育内容に関するコミュニケーションが図られています。

【家庭的な雰囲気の中で保育が実践されています】

園全体が一つの大きな家族のように過ごす配慮がなされています。設備面については、玄関を入ると、床は厚みを感じる木製フローリングで保育室内は家庭的な家具が置かれ、またキッチンがカウンター越しに見られるなど、園全体が家庭的な雰囲気を感じさせます。

子どもたちは、日常から異年齢で過ごす時間の中で、自然と兄弟のような関係性が育まれ、年下の子どもが年上の子どもに憧れ、さまざまなことに挑戦したり、年上の子どもが年下の子どもの面倒を見るなどの姿が見られます。職員も担当クラスはありますが、他のクラスの子とも一緒に保育するという姿勢があり、これが園全体が大きな家族として生活する雰囲気を醸成しています。そのため、保護者からは「クラスを超えてどの職員の方も子どもたちとかかわっている」というような意見も出されています。

◇改善を求められる点

【職員一人ひとりの目標設定を振り返る仕組みづくりが望まれます】

職員は年に2回スタッフシートを通して、具体的な保育内容について振り返っています。振り返った内容について施設長との面談を通して客観的に見直すとともに、今後の保育につなげています。また、日頃の保育の様子を撮影し、客観的に保育を振り返る機

会を設けています。さらに、保育所全体での職員一人ひとりによる自己評価も実施しています。

今後は、自己評価された内容について、一人ひとりの職員が具体的な目標設定を記載し、振り返る仕組みを作ることで、さらなる保育の質の向上、及び専門的技術の向上が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

いろいろな面で客観的に保育を見ることができた。
また、なぜこの書類が必要なのかなど改めて確認する事ができた。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり